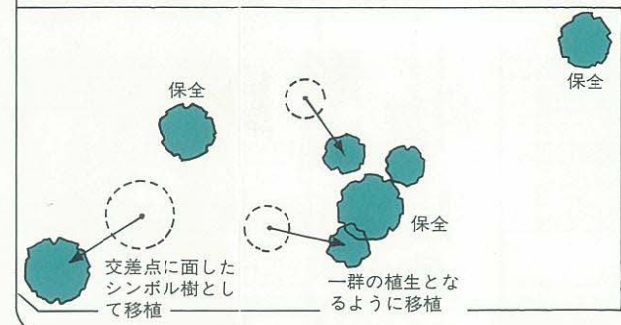


アメニティ形成協議等の主要な視点

●こんなことに気をつけて下さい

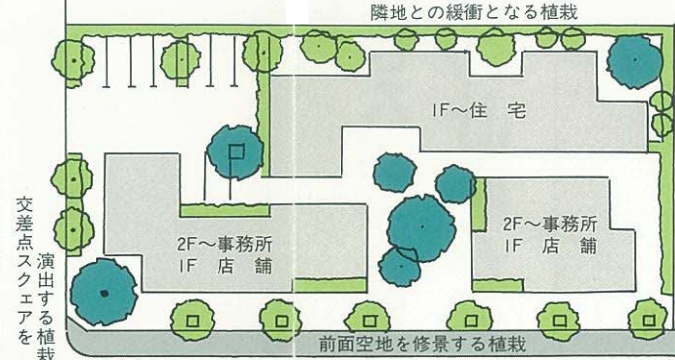
ヒューマンスケールに留意する	建築等の低層部のつくり方に配慮する	<ul style="list-style-type: none"> ●セットバックや壁面の凹みによるゆとりの空間の確保。 ●身体の不自由な人への配慮。 ●やわらかさを感じさせる低層部の意匠。 ●接道部や駐車場での緑化。
	狭い道に面する場合には接道部に極力ゆとりをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●狭隘道路での歩道状空地の確保。 ●歩行の不自由な人のためのスペースの創出。 ●公民境界部の段差の最小化。 ●斜線制限の緩和や総合設計制度での歩道状空地の確保。
	垣・塀・柵などの工夫をする	<ul style="list-style-type: none"> ●歩行者に対してやわらかい囲障をつくる。 ●自然素材などを活用した囲障の材質。 ●生垣や植栽等の活用。 ●工事用の防護シートや仮囲いの工夫。
	立体駐車場のつくり方に配慮する	<ul style="list-style-type: none"> ●圧迫感の軽減。 ●植栽、意匠、遮蔽物による修景。 ●騒音への対処。
先導的にまちなみを形成する	ランドマーク性を意識する	<ul style="list-style-type: none"> ●正面性への配慮。 ●交差点に面する場所でのゆとりの確保。 ●ベランダの空調機械などの遮蔽。 ●屋外階段を目立たせない配慮。
	屋上をスッキリとする	<ul style="list-style-type: none"> ●建築設備等の遮蔽。 ●屋上緑化。 ●看板・屋外広告物の工夫。
	地域との融和に極力配慮する	<ul style="list-style-type: none"> ●地域特性を尊重した外観。 ●敷地内の通り抜けや隣接地との空地の連担。 ●スケール感やスカイラインの連続性。 ●建築物背後の処理。 ●過剰な色彩の排除。
	ストリートファニチャーの工夫をする	<ul style="list-style-type: none"> ●美しく楽しいものの配置と過剰なデザインの排除。 ●座れる場所や日除けの確保。 ●利便性、デザインの統一、数量の集約化。 ●質の高い照明具による夜間の演出。
自然や環境への対応を配慮する	自然を大切に	<ul style="list-style-type: none"> ●大きな樹木の維持。 ●微妙な地形変化の活用。 ●土の部分の維持。
	都市の自然回復に資する	<ul style="list-style-type: none"> ●鳥や昆虫の生息環境の形成と維持。 ●屋上、壁面、ベランダ等での緑化。 ●雨水等の地下浸透。
	オープンスペースに呼応した建築等のつくり方を	<ul style="list-style-type: none"> ●公園や緑道等との景観的連続性への配慮。 ●眺望に配慮したつくり方。 ●接道部や駐車場での緑化。
市民の立場に立つ	アートや文化的な要素を積極的に付加する	<ul style="list-style-type: none"> ●彫刻やモニュメントの設置。 ●ギャラリーなどのコーナーの併設。 ●ミニイベントスペースの確保。 ●親しみのあるデザインの導入。 ●文化施設や歴史的資源への配慮。
	賑わいの演出に配慮する	<ul style="list-style-type: none"> ●閉店後の外観の工夫。 ●夜間の前面空地の活用。 ●夜景への配慮。 ●商業施設での室内と屋外の視線交流。

敷地利用計画

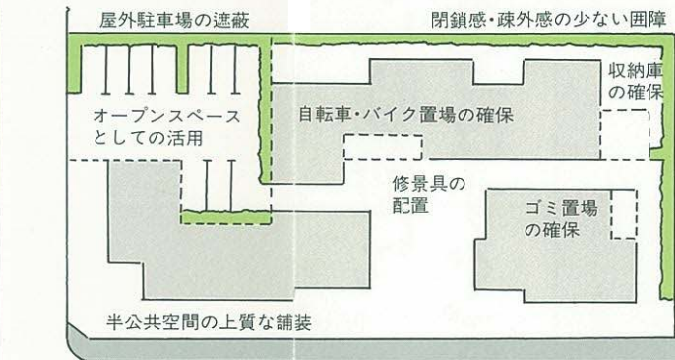


既存樹林や樹木の保全・活用の検討

外構計画

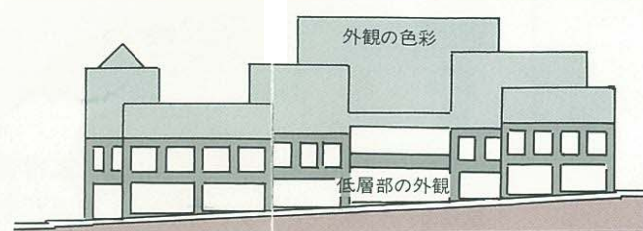


建築物の用途や前面空地の特性に応じた外構緑化の検討

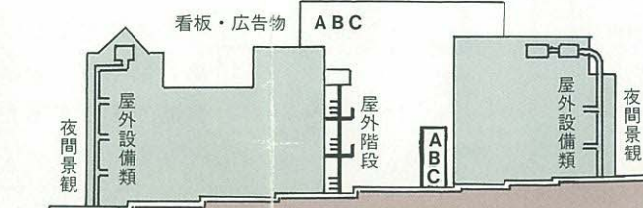


外構空間を整えるための検討

建築計画



建築物本体に関するこの検討



建築物に付随するものや関連することの検討

●アメニティ形成に関する行為の届出手順

